令和８年度 学力向上のための重点プラン【小学校】新宿区立落合第一小学校

■　学校の共通目標　　　　　　　　　　　　　　　　　【ＨＰ公開用･様式１･令和８年５月８日】

授業作り	重点	協働的な学びの基盤となる力を育成できるよう、きめ細やかな指導を行う。
環境作り		学校共通でユニバーサルデザインに即した環境整備を図る。

■　学年の取組について

学年	学習状況の分析（各種調査から）	学校が取り組む目標（日常の授業の様子から）	目標達成のための取組
1学年		・平仮名、片仮名、漢字を正確に書いたり読んだりできるようにする。 ・物語文や説明文の内容の大体をとらえることができるようにする。 ・自分の意見を相手に伝えることができるようにする。 ・たし算やひき算の計算が正確にできる。 ・量感を感じ取ることができる力を高める。	①筆順や字形の指導の継続 ②意図的な文を書く機会の導入 ③話し合い活動や友達との会話の充実 ④積極的な読書活動の取組 ⑤数の構成の反復学習 ⑥学習問題と日常の場面を意図的につなげる機会の確保 ⑦ICT 機器の使い方の理解
2学年		・文章を読んで内容の大体をとらえ、分かったことや考えたことを友達と伝え合えるようにする。 ・自分の経験や感想を簡単な文章で表現することができるようにする。 ・新出漢字を繰り返し読んだり書いたりすることで定着を図る。 ・たし算、ひき算、かけ算の意味を理解しながら確実に計算することができるようにする。	①音読カードを活用しての練習 ②授業内における対話活動の設定 ③漢字小テストの実施と反復練習 ④筆順や字形の指導の継続 ⑤学習状況の把握と必要に応じた個別指導 ⑥読書活動の推進
3学年	・作文では、誤字脱字がいくつか見られるとともに、内容をより伝わりやすくするために、文章の量を増やしたり、考えを具体的に書いたりする点に課題がある。 ・計算では、個人差ができつつある。	・自分の考えを順序立てて書く活動を意図的に入れ、友達との交流・読書活動などから、文章の書き方を身につけることを目指す。 ・計算では、既習内容を定着させるために、紙のドリルやタブレット端末を活用して、反復練習に取り組み定着を目指す。	①文章を書く機会を増やす ②漢字テストの実施 ③紙のドリルやタブレットを使った反復練習 ④読書活動の推進 ⑤音読カードを活用しての練習
4学年	・既習漢字については、おおむね定着が見られる。基礎基本は身に付いているといえるが、文章中で漢字を正しく使うことには課題が見られる。 ・国語では、述語に対応する主語を選ぶ問題において課題が見られた。 ・算数では、記述式の応用問題において、Ａ層とＤ層で大きな差が見られる。	・既習事項を活用する機会を意図的に設定していく。また、教材の音読を通して、日々、漢字を使った文章に触れる機会を設定していく。 ・書く活動を通した文法理解の強化を図るとともに、対話活動を通して文の組み立て力を向上させる。 ・算数の授業では、Ａ層の考えを共有し、図や式で説明する活動を重視していく。Ｄ層には段階的なヒントや型を用いて記述力を支援し、全員が説明できる授業を充実させる。	①漢字小テストの実施と反復練習 ②音読カードを活用しての練習 ③読書活動の推進 ④授業内における対話活動の設定 ⑤学習状況の把握と個に応じた指導 ⑥ICT 機器を活用した練習問題の取組

５ 学 年	・自分の考えを文章で書き表せるようになるために、文章を書くことを習慣付ける手だてが必要である。 ・算数では、単元の前提となる基本事項にさかのぼった、個別指導が必要である。 ・話し合い活動にすすんで取り組むことを通して、相手の意見を聞いて受け止めたり、認め合ったりする経験の積み重ねが必要である。	・自分の考えを整理して、順序立てながら文章に書き表す力を高める。 ・既習事項をどのように活用できそうかを共有した上で、課題に取り組むことができるようにする。 ・練習問題を行うことで、既習事項を活用する時間を確保し、習熟を図る。 ・普段の学習から話し合うことの意味や話し合うことで得られることを伝え、話し合い活動の充実を図る。	①自分の考えや意見を文章化する学習活動の設定 ②文型の提示 ③読書時間の確保 ④課題解決に向けた見通しの明確化 ⑤学習状況の把握と個に応じた指導 ⑥練習時間の確保 ⑦ICT 機器を活用した練習問題の取組
６ 学 年	・国語科では、漢字の書きの問題に課題がある。言語事項における既習内容の徹底指導を行っていくことが必要である。 ・算数科では、分数の計算や平面図形の問題に課題がある。習熟度別少人数指導を通して基本的事項から、個に応じた指導が必要である。	・教材文で使われている漢字の読みを定着させるとともに、漢字の部首や意味を捉えさせながら児童一人ひとりの漢字の正確な書き取りを支援し、既習内容の定着を図る指導を徹底する。 ・個に応じた練習問題を行うことで既習事項を活用する時間を確保し、習熟を図る。	①漢字の反復練習の機会の増加 ・定期的に短時間での漢字書き練習の実施 ・児童の学習状況に合わせた個別課題の対応 ・漢字カードやワークシートを用いて、楽しみながら学べるような工夫。 ②デジタルドリル等、タブレット端末の活用